



NO. 666  
発行  
09・6月11日  
国鉄労働組合  
新潟地方本部  
発行責任者  
守橋久仁雄  
編集責任者  
教宣部

# やればできる



第五回全国組織拡大経験交流集  
会が、五月十四日、十五日にかけて  
熱海市で開催されました。  
全国から百四十三名が参加し二日  
間と一限られた日程の中で職場の  
活動状況の報告や分散发会など行い全  
体の意思統一を図りました。  
今年も、学習会も企画され、早稲田  
大学アジア研究機構・アジア研究所教  
授の戸崎肇先生から、毎日新聞の東  
海林智先生から、講演がありました。  
学習会の内容については『国鉄新潟』  
の紙面の中で紹介していきます。



国労本部・田中副委員長の開会あ  
いさつでは、『組織拡大は、やれ  
ばできるという雰囲気になつてき  
た。全体のものにしていきたい』  
とあり、浜中書記長から問題提起  
がされ全体での議論に移っていき  
ました。

分散会では、各系統別に分かれ  
て職場の問題を中心に報告や活動  
状況など議論されました。



## 裁判員制度の 仕組みと問題点

### その4

#### 公判の形骸化の危険性

『公判前整理手続き』の段階で、  
双方の主張・争点の開示、証拠決定、  
審理計画策定までがなされるため、  
裁判官が公判開始前に事件について  
の予断をいまく可能性があります。

裁判員との情報の格差の問題があ  
ります。

『裁判員の負担を減らす』という  
名のもとに、連日的開廷が原則とさ  
れ(281条の6)、短期間に限ら  
れた証拠だけを取り調べることが強  
調されます。

こうした形式的な運用は、公判の  
形骸化や拙速な審理につながりかね  
ません。



## 第5回全国組織拡大 経験交流集会開く

# 競争原理が進行する の中での鉄道業



### 昨今の交通政策を 取り巻く状況の変化

バス・タクシー・鉄道・トラ  
ックが規制緩和された。タクシー運  
転手は平均六〇〜七〇歳を超えて  
いる。賃金が安いから高齢化になつ  
た。規制緩和から、タクシー強盗  
が発生している。(強盗が簡単に

### タクシーの台数は 崩壊になっている

タクシーの台数は規制緩和によつ  
て崩壊になっている。国民のため  
になつていない。政府は規制緩和  
を実験という形で実施した。  
反対の議論を展開させる。マス  
コミは不況を作り出している。先  
導している。  
社会的想像力の欠如の中で、ひ  
とひとり考えない、考えよう  
としない。目先の情報だけに飛び  
ついている。(裏面へつづく)

## 早稲田大学アジア研究機構 戸崎肇 アジア研究所教授

できること)それをマスコミが強  
調している。  
社会的想像力が貧困になつてい  
る。考える力がなくなっている。  
マスコミは企業・政府の味方になつ  
ている。論調が変わってきている。



### 鉄道業の今日的困難性

経済は交通へ波及していく。経済が発展しなければ発展しない。交通体系ETCによって高速道路のマイカー利用の増大、そのためトラック業界が打撃を受けている。ETCに恩恵はあるのか。JRの利用率が低下している。労働環境の低下に伴っている。公共交通機関に対して考え方を政府が示す。しかし、車産業が大きいため言えない。車検制度を変えられない。そのため公共交通機関が切り捨てられサービスが悪くなる。そのため車社会になっている。

### 交通権について

弱者に対して厳しい環境になっている。移動する権利。高齢者が孤立化している。平等に利用できない地域が多い。(点在者) 医療機関についても同様だ。山奥では高齢者が多く、バス停は自宅から何キロも離れている。高齢者から車の免許を取り上げる状況の中で益々厳しい。地方の合併で、赤字のバス路線の閉鎖が進んでいる。地方交通の衰退。

### 鉄道について

私鉄との競争で脱線事故が発生している。なぜ競争になるのか、それはスピードアップなど利用者が望んだものだ。規制緩和を受け入れた国民にも責任がある。事故が発生していく。規制緩和は利便性を追求していた。



### バスの事故

乗務員の死。認可したことに對し責任がある。規制緩和してから労働環境など、監視する、システムが必要。ルールを守らせる体制が必要だ。国交省の要員を増やしたいが、厳しい。地方分権へ実施させる。地域協議体で地方の交通体系をどう確立していくのを進める。



### 環境政策の側面からの鉄道の優位性

鉄道などの自殺について、死のボルノグライフティー 現状を隠さない 当事者よりも背後への影響力が大きくなっている。

貧困が新しいビジネスになっている。マスコミ報道などで消費の対象になっている。貧困層の健康状態は生活が厳しいので健康が悪化・亡くなる人もいる。

貨物鉄道輸送へ環境問題を考えると利用させなければならぬ。政府がモーターサイクルシフトしていく。強制的に行う。JRの経営形態を変える。交通行政を一元化していく。統轄制をもつ、担当者を変えないで政策を進める。



### 労使の果すべき役割の再認識

労使の果す責任へ労働組合が一番感性をみがいていく。若者は何を求めているのか、どんな組織を考えているのか。社会状況が変わってきている。若者が従来とは、かけ離れた実態、個人主義になっている。若者を想像させてあげられるような運動をしていく。

横との連携・団結していくこと。共闘していくことが政治的、力をもつ。相乗効果が全体を結集していく。本来的な商業ベースにのらないで行政を変えていく。労働組合は、いろんな労働運動の展開を進める。

### 労働者の生きがい

労働者の生きがいは仕事 組合運動を、どう新しくしていくのか。そこから若い人たちを取り込んでいく。

地方分権へJRが交通機関と連帯し守っていくこと。若者を取り込んでいくこと現状を、どう把握していくのが重要だ。

### 編集後記

少し長くなりましたが、学習会の内容を記載しました。戸崎先生は冗談を、まじえながら講演で、眠くなりそうな参加者をひきつけていました。大変、勉強になりました。次号も、毎日新聞の東海林智先生の『命を削る貧困の労働現場から』について講演された内容を記載します。日雇いの労働者・契約社員の実態など生々しい事実が講演されています。ぜひ読んでいただければと思います。



帝京長岡高校 不当労働行為事件 労働委員会 結審 7月22日(水) 18時~県庁16階